

貯 法：室温保存

有効期間：3年

筋緊張性疼痛疾患治療剤

日本薬局方 クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠

クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 125mg 「NP」

クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 250mg 「NP」

Chlorphenesin Carbamate Tablets

	錠125mg	錠250mg
承認番号	22500AMX00775	22500AMX00776
販売開始	2011年6月	1987年10月

2. 禁忌（次の患者には投与しないこと）

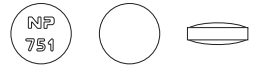
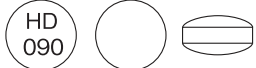
- 2.1 本剤及び類似化合物（メトカルバモール等）に対し、過敏症の既往歴のある患者
2.2 肝障害患者 [9.3.1 参照]

3. 組成・性状

3.1 組成

販売名	有効成分	添加剤
クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 125mg 「NP」	1錠中 日本薬局方 クロルフェネシンカルバミン酸エステル 125mg	結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、カルメロースカルシウム、ステアリン酸マグネシウム、D-マンニトール、軽質無水ケイ酸、硬化油
クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 250mg 「NP」	1錠中 日本薬局方 クロルフェネシンカルバミン酸エステル 250mg	結晶セルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、カルメロースカルシウム、ステアリン酸マグネシウム、トウモロコシデンプン

3.2 製剤の性状

販売名	性状	外形・大きさ		
		直径 (mm)	厚さ (mm)	重量 (mg)
クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 125mg 「NP」	白色の素錠			
		8.0	3.3	180
		NP-751		
クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 250mg 「NP」	白色の素錠			
		9.5	4.7	350
		HD-090		

4. 効能・効果

運動器疾患に伴う有痛性痙縮

腰痛症、変形性脊椎症、椎間板ヘルニア、脊椎分離・沁り症、脊椎骨粗鬆症、頸肩腕症候群

6. 用法・用量

通常成人 1回クロルフェネシンカルバミン酸エステルとして250mgを1日3回経口投与する。

なお、年齢、症状により適宜増減する。

8. 重要な基本的注意

ねむけ、注意力・集中力・反射運動能力等の低下が起こることがあるので、本剤投与中の患者には、自動車の運転等危険を伴う機械の操作に従事させないよう注意すること。

9. 特定の背景を有する患者に関する注意

9.2 腎機能障害患者

The United States DISPENSATORY, 27th Ed. 301 (1973) 及び MARTINDALE The Extra Pharmacopoeia, 26th Ed. 1891 (1972) に準拠した。

9.3 肝機能障害患者

9.3.1 肝障害患者

投与しないこと。Modern Drug Encyclopedia, 13th Ed. 155 (1975) に準拠した。[2.2 参照]

9.3.2 肝障害の既往歴のある患者

9.5 妊婦

妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。

9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

9.7 小児等

小児等を対象とした臨床試験は実施していない。

9.8 高齢者

減量するなど注意すること。一般に生理機能が低下している。

10. 相互作用

10.2 併用注意（併用に注意すること）

薬剤名等	臨床症状・措置方法	機序・危険因子
フェノチアジン系薬剤 〔クロルプロマジン塩酸塩等〕	相互に作用を増強することがあるので、用量を調節するなど注意すること。	機序は不明である。
中枢神経抑制剤 〔バルビツール酸誘導体等〕		
モノアミン酸化酵素阻害剤		
アルコール		

11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。

11.1 重大な副作用

11.1.1 ショック（頻度不明）

11.1.2 中毒性表皮壊死症（Toxic Epidermal Necrolysis：TEN）（頻度不明）

11.2 その他の副作用

	0.1～1%未満	0.1%未満	頻度不明
精神神経系	めまい・ふらつき、ねむけ	頭痛・頭重感、倦怠感、脱力感	
消化器	腹痛 ^{注1)} 、消化不良 ^{注2)} 、嘔気、胃腸障害	下痢、便秘、口内乾燥、舌炎、悪心	
血液			白血球減少、血小板減少
過敏症	発疹 ^{注3)}	浮腫・腫脹感、そう痒感、口内炎、熱感	

頻度は承認時の一般臨床試験及び市販後の調査の合算に基づいている。

注1) 胃痛、胃部不快感を含む。

注2) 胃のもたれ（膨満感、胃重感）、胸やけ、食欲不振を含む。

注3) 皮疹、薬疹を含む。

14. 適用上の注意

14.1 薬剤交付時の注意

PTP包装の薬剤はPTPシートから取り出して服用するよう指導すること。PTPシートの誤飲により、硬い鋭角部が食道粘膜へ刺入し、更には穿孔をおこして縦隔洞炎等の重篤な合併症を併発することがある。

15. その他の注意

15.1 臨床使用に基づく情報

国内の臨床試験で8週間を超えた投与例は限られており、本剤を長期間投与する場合は、臨床検査（血液検査、尿検査及び肝機能検査等）を行うことが望ましい。

16. 薬物動態

16.1 血中濃度

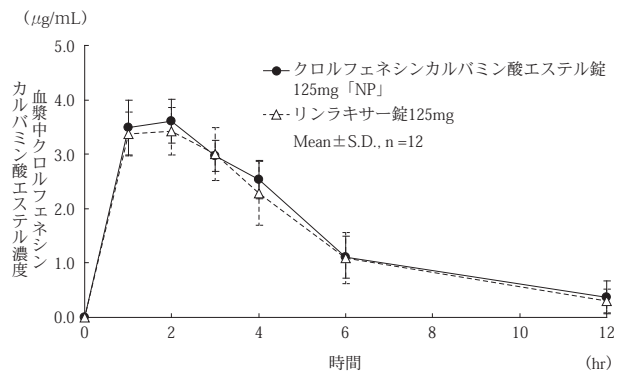
16.1.1 生物学的同等性試験

〈クロルフェネシカルバミン酸エステル錠 125mg「NP」〉とリンラキサー錠 125mgのそれぞれ2錠（クロルフェネシカルバミン酸エステルとして250mg）を、クロスオーバー法により健康成人男子に絶食単回経口投与して血漿中クロルフェネシカルバミン酸エステル濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ（ $AUC_{0 \rightarrow 12hr}$ 、 C_{max} ）について90%信頼区間法にて統計解析を行った結果、 $\log(0.80) \sim \log(1.25)$ の範囲内であり、両剤の生物学的同等性が確認された¹⁾。

薬物動態パラメータ

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	$AUC_{0 \rightarrow 12hr}$ ($\mu\text{g} \cdot \text{hr}/\text{mL}$)	C_{max} ($\mu\text{g}/\text{mL}$)	T_{max} (hr)	$t_{1/2}$ (hr)
クロルフェネシカルバミン酸エステル錠125mg「NP」	19.44±2.74	3.78±0.39	1.50±0.52	3.07±1.39
リンラキサー錠125mg	18.48±3.35	3.64±0.27	1.42±0.51	2.72±0.96

(Mean ± S.D., n=12)



血漿中クロルフェネシカルバミン酸エステル濃度推移

血漿中濃度ならびにAUC、 C_{max} 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

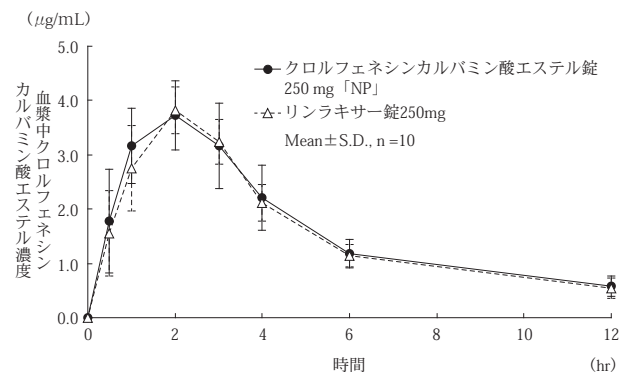
〈クロルフェネシカルバミン酸エステル錠 250mg「NP」〉

クロルフェネシカルバミン酸エステル錠 250mg「NP」とリンラキサー錠 250mgのそれぞれ1錠（クロルフェネシカルバミン酸エステルとして250mg）を、クロスオーバー法により健康成人男子に絶食単回経口投与して血清中クロルフェネシカルバミン酸エステル濃度を測定した。得られた薬物動態パラメータ（ $AUC_{0 \rightarrow 12hr}$ 、 C_{max} ）の平均値の差の95%信頼区間は±20%の範囲にあり、両剤の生物学的同等性が確認された²⁾。

薬物動態パラメータ

	判定パラメータ		参考パラメータ	
	$AUC_{0 \rightarrow 12hr}$ ($\mu\text{g} \cdot \text{hr}/\text{mL}$)	C_{max} ($\mu\text{g}/\text{mL}$)	T_{max} (hr)	$t_{1/2}$ (hr)
クロルフェネシカルバミン酸エステル錠250mg「NP」	19.906±3.621	3.94±0.42	1.90±0.57	4.13±0.76
リンラキサー錠250mg	19.229±2.421	3.92±0.37	1.90±0.57	4.15±1.07

(Mean ± S.D., n=10)



血漿中クロルフェネシカルバミン酸エステル濃度推移

血漿中濃度ならびにAUC、 C_{max} 等のパラメータは、被験者の選択、体液の採取回数・時間等の試験条件によって異なる可能性がある。

18. 薬効薬理

18.1 作用機序

脊髄の多シナプス反射経路中の介在ニューロンを選択的に抑制することによって骨格筋の弛緩をもたらすので、中枢性筋弛緩薬と呼ばれる。臨床的には、腰痛などの治療補助薬として用いられる³⁾。

19. 有効成分に関する理化学的知見

一般名：クロルフェネシンカルバミン酸エステル

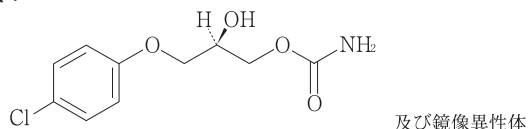
(Chlorphenesin Carbamate)

化学名：(2RS)-3-(4-Chlorophenoxy)-2-hydroxypropyl carbamate

分子式：C₁₀H₁₂ClNO₄

分子量：245.66

構造式：



融 点：88～91℃

性 状：・白色の結晶又は結晶性の粉末である。

- ・メタノール、エタノール（95）又はピリジンに溶解やすく、水に溶けにくい。
- ・エタノール（95）溶液（1→20）は旋光性を示さない。

22. 包装

〈クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 125mg〔NP〕〉

100錠 [10錠 (PTP) × 10]

〈クロルフェネシンカルバミン酸エステル錠 250mg〔NP〕〉

100錠 [10錠 (PTP) × 10、乾燥剤入り]

23. 主要文献

- 1) 社内資料：生物学的同等性試験（錠125mg）
- 2) 社内資料：生物学的同等性試験（錠250mg）
- 3) 第十八改正日本薬局方解説書. 2021：C-1850-C-1854 (L20230393)

24. 文献請求先及び問い合わせ先

ニプロ株式会社 医薬品情報室
〒566-8510 大阪府摂津市千里丘新町3番26号
TEL 0120-226-898
FAX 050-3535-8939

26. 製造販売業者等

26.1 製造販売元



NIPRO

ニプロ株式会社
大阪府摂津市千里丘新町3番26号